

肥後琵琶伝承三百五十年記念特別上映会

◆ 吉の部

長編記録映画

琵琶法師

山鹿良之

琵琶弾きは見かけじやなか。
芸をみがけ



監督：青池憲司
製作：オフィスエイエス／1992年作品
16ミリフィルム(80分)
1992年「毎日映画コンクール・記録文化映画賞」
1992年「キネマ旬報」文化映画ベストテン 第4位
1992年「文化庁優秀映画作品賞」

◆ご予約はこちらから↓



2024年3月31日(日)

北鎌倉**浄智寺**にて開演14:00(開場13:30)

◆ 吉の部 ● 長編記録映画『琵琶法師 山鹿良之』(80分)

一仲入り

◆ 式の部 ● 女流浪曲師 天中軒すみれ

【小栗判官 餓鬼阿弥車】(30分) 曲師 広沢美舟

● 薩摩琵琶錦心流 坂麗水

【耳なし芳一】(30分)

- 浄智寺：神奈川県鎌倉市山ノ内1402
- JR横須賀線／湘南新宿ライン「北鎌倉駅」徒歩約8分
- 木戸銭：3000円(当日3500円) 定員80名
- ご予約：090-8726-6396
- お問い合わせ：0463-73-7674 KENT OFFICE
- s4500kenz.5200@docomo.ne.jp (長嶋建人)

◆ 式の部





最後の琵琶法師 山鹿良之 兵藤裕巳(学習院大学名誉教授)

シルクロードを經由して日本に渡来した琵琶には、大別してふたつの系統があった。ひとつは、畿内中央に公式ルートで伝えられた雅楽琵琶。もうひとつは、大陸から直接九州地方に渡来したとみられる琵琶法師の琵琶である。

琵琶法師の琵琶は、携帯に便利なように、雅楽琵琶よりもひとまわり小振りになってきている。棹のにぎりが太く、柱(フレット)の数も多いという独特のつくりだが、『平家物語』などのさまざまな物語を語り、祝言や寛被いなどの民間の宗教儀礼にたずさわった琵琶法師は、16世紀の末頃から、しだいに新しい三味線音楽に転向していった。東北地方に伝わった奥浄瑠璃や有名な軽三味線は、いずれも座頭三味線の系統である。近世の語り物音楽を代表する浄瑠璃・文楽も、もとは座頭(男性盲人)の三味線芸として出発した。

時代の流行が琵琶から三味線へ移行したなかで、しかし九州地方だけは、座頭の琵琶が江戸時代以降も行われた。理由のひとつは、盲人の琵琶演奏が九州では、奄美・わたまし(新築祝い)などの民間の宗教祭祀と密接に結びついて存在したからだ。法具としての琵琶のあり方が、三味線との交替を困難にしたのだが、芸能者が同時に宗教者でもあるという古代・中世的な芸能伝承のあり方は、九州の琵琶法師によって近代まで伝えられた。

琵琶法師

山鹿良之

山鹿良之さんは、明治34年(1901年)3月、熊本県玉名郡大原村(現南関町小原)の農家の三男として生まれ、4歳で左眼を失明、22歳のときに天草の座頭、玉川教節のもとに弟子入りした。三年後いったん郷里にもどり、再度福岡県大牟田の玉川教山について修行したあと、昭和3年(1927年)に独立して玉川教演と名のり、熊本県北部や福岡県南部を中心に昭和40年代まで活動した。

その放浪芸的な活動実態といい、全貌を把握したいほどの膨大な伝承量といい、山鹿さんはまさに日本最後の琵琶法師だった。研究者用語で、オーラル・コンポジション(口頭的作詞法)といわれるその自在な語り口は、文学・芸能史を研究する者にとって、きわめて貴重な研究対象になっていたが、そんな研究上の関心をはなれても、聴く者を強く引きつけてやまなかったのは、山鹿さんの芸がもつ独特の説得力であった。

琵琶語りひと筋に生きた山鹿さんは、常人の想像を絶するような生活苦のなかで5人のお子さんを亡くすという悲運にも見舞われた。だが、そんな逆境のなかから生まれた山鹿さんの芸には、聴く者を身ぶるいさせるような説得力があった。

山鹿さんが語る小栗判官や俊徳丸の物語が、山鹿さん本人のライフ・ヒストリーと重なりあい、まさに小栗や俊徳丸が復活・転生する現場に立ちあうような異形なりアリティを生み出したのである。

そんな日本最後の琵琶法師、山鹿良之さんは1996年に満95歳で他界した。1993年から3年あまりは介護施設で療養する日々だったが、今回上映される『琵琶法師 山鹿良之』は、琵琶弾き座頭としての山鹿さんの現役最晩年のすがたを記録している。日本の放浪芸人の最後をみとった貴重なドキュメンタリー映像である。

◆出演
山宮木田藤片熊小原福崩
鹿川村中本藤片熊小原福崩
良光義夫
之義夫乃星
義夫乃星
関町みなさん
柳川市みなさん

◆スタッフ
製作 二己司史人 弘勝子良司
監督 健裕憲 啓建康 英 憲
監修 島藤池代嶋峯本田原池
監督 長兵青田長永村織石青
撮影 藤田長永村織石青
編集 尾花英一
編集 尾花英一
制作 尾花英一

◆技術協力
株式会社ヨコシネディーアイエー
株式会社IMAGICAエンターテインメントメディアサービス
SOUND DUCK CO.LTD.
◆協力
「肥後琵琶伝承三百五十年記念 実行委員会」
兵藤裕巳(学習院大学名誉教授)
佐々木達彦(ヒコデザイン)
村本勝(映画編集) 青池憲司(映画監督)
松尾貴弘(サウンドダック) 杉江松恋(スギエゴノミ)
岡博大(NPO法人 湘南遊楽坐)
◆後援 北鎌倉 浄智寺

予告編はここから↓



URL
https://biwahoushi120.work

肥後琵琶伝承三百五十年記念特別上映会

◆式の部

◆プロフィール

琵琶 坂麗水(ばんれいすい)

薩摩琵琶錦心流中谷派裏水会の荒井姿水師に師事。文化庁・NHK後援日本琵琶楽コンクールに秀位入賞、サンフランシスコ、リトルロック、ダラス、インディアナポリス(米国)、パリ、ニース(仏)にて演奏活動を行う。国内では鎌倉の能舞台、寺社で演奏会を行う傍ら、他楽器(笛、箏、ピアノ、バイオリン、ギター、フルート)とのコラボや、他ジャンル(ソロ・ミュージカル、舞踊、朗読、浪曲)との共演を積極的に行う。2016年よりフランス・アヴィニオン国際フェスティバルに毎年出演。市内をはじめとする各地の小中学校で琵琶の特別授業をおこなうなど、薩摩琵琶の普及と紹介に努め、多方面にて活躍中。鎌倉市雪ノ下在住。



浪曲師 天中軒すみれ(てんちゅうけん すみれ)

茅ヶ崎市出身。東京藝術大学 音楽学部 楽理科卒業。在学時に邦楽や民俗芸能の世界に魅了され、日本の声の表現に携わりたいという思いを強くする。浪曲を聴いて「日本にこんなにも熱い語り物があったのか」と感動。2018年4月、五代目天中軒雲月入門。2023年1月29日 浅草木馬亭にて年季明け披露。東京、大阪の他地元茅ヶ崎でも浪曲公演を行なう。



曲師 広沢美舟(ひろさわ みふね)

2015年5月に 日本浪曲協会主催の三味線教室に通い翌月には沢村豊子入門志願。2016年4月1日 浅草木馬亭にて初舞台。2022年10月伴侶の三代目広沢菊春襲名と同時に「広沢美舟」に改名した。

◆演目

【小栗判官 餓鬼阿弥草】

たぐいまれなる美貌の主・小栗判官は下野国で照手姫と恋に落ちるが、それを憎んだ者に毒殺されてしまう。閻魔大王の情けにより地上に戻った判官は、以前とは似ても似つかぬ餓鬼阿弥の姿となっていた。熊野本宮の湯の峯に入れば 元の姿に戻れるというのだが…。

杉江松恋:脚本

【耳なし芳一】

源平最期の合戦が壇ノ浦で繰り広げられ、平家一門は幼い安徳天皇を抱いて、西海の藻屑となって消えてゆきました。それ以来壇ノ浦では色々と奇怪な現象が起るようになりました。頃は江戸時代。壇ノ浦を見下ろす小高い丘の上に、阿弥陀寺というお寺がありました。そしてここに芳一という琵琶法師が住んでおりました。彼は生まれつき目が見えませんが、彼の奏でる琵琶は素晴らしく、ことに壇ノ浦の段を語ると鬼神も涙を流さざるを得ないほどであったということです。この芳一がなぜ「耳なし芳一」と呼ばれるようになったのかのお話です。

小泉八雲:原作 沢道子:作詞 荒井姿水:作曲